

賀寿期五歳層 「長命期」(大正生まれ)

米寿期 (85歳～89歳) 人名録 昭和3年～大正13年

わが国の平均寿命が、女性86歳、男性79歳であることからすると、88歳の「米寿」あたりからがやっと長命を祝える年齢に達したということになります。ことしは昭和88年ですから数えですと昭和元年生まれの人が「米寿」ということになります。落語家の桂米丸さんも桂米朝さんも大正14(1925)年の生まれ。昨年、数えの88歳で「米寿」の祝いをすませています。

ここでは満年齢での5歳層「米寿期」ですから、85歳・昭和3(1928)年～89歳・大正13(1924)年生まれの方々が仲間ということになります。

昭和は大正15年12月25日の改元でしたから昭和元年は実感の乏しい年号です。昭和人名録をみていただくとおわかりのように、1926年生まれの方には、森英恵、石井ふく子、河野多恵子、中根千枝、三浦朱門、安野光雅氏。学者も多く多湖輝、小柴昌俊、大塚初重といった各氏が各界で活躍しています。この方々を先頭にして、昭和生まれの人びとの持つ巨大な知性の幅と厚みと密度に、改めて敬意を表したいと思います。

卒寿期 (90歳～94歳) 大正12年～大正8年

心の奥に、心のふるさととして共有している童謡・唱歌も歌われて百歳になります。大正8年にはあわて床屋、浜千鳥、金魚のひるね、靴が鳴る 大正9年には十五夜お月さん、お山の大将、叱られて 大正10年には青い目の人形、赤い靴、七つの子、赤とんぼ 大正11年にはシャボン玉、春の歌、砂山 大正12年には肩たたき、背くらべ、おもちゃのマーチなど。大正生まれのみなさんは母さんの歌うこんなやさしい童謡をたくさん聞きながら育ったのです。もちろん男の子も。その後、軍歌の時代がやってきますが。

大正12年9月1日11時58分、関東大震災(M7.9)が襲いました。大正初年生まれの人びとは大震災・戦災の記憶を留めています。

白寿期 (95歳～99歳) 大正7年～大正3年

もうあと一年で百歳の年が「白寿」です。「白寿」をふくむ5歳層95歳～99歳がここでの「白寿期」です。百歳の目標が一年一年、ひと月ひと月と近づいてきます。いろいろな医療施設や福祉施設が「白寿」を称しているのは、百歳をめざしてがんばりましょうという願いを込めているからでしょう。

蟹江ぎんさん(2001年・108歳で)の娘さん4姉妹の長女年子さんが98歳、千多代さんが94歳、百合子さんが91歳、美根代さんが89歳。みんなお元気で「食べる、しゃべる、自分でする」のが健康で暮らす秘訣とか。

百寿期（１００歳以上） 大正２年以前

個人的にはおとし「百寿期」に達した聖路加病院の日野原重明名誉院長（１９１１年１０月４日生まれ）が知られます。昨年は映画監督の新藤兼人さんが到達してすぐ亡くなりました。日本一（世界一）の長寿者は木村次郎右衛門さん（１８９７年４月１９日）です。

百寿期にある人の数は５万人に達しました。これはもう都市レベルのコミュニティ「百歳社会」の誕生といえるでしょう。昭和生まれ８０歳の樋口恵子さんはまだ裾野で「百歳社会の初代」を掲げていますが、「大正生まれ」の女性が先行しているのは確かなようです。

賀寿期五歳層のステージ

２０１３年では、

百寿期（１００歳以上）	大正２年以前
白寿期（９５歳～９９歳）	大正７年～大正３年
卒寿期（９０歳～９４歳）	大正１２年～大正８年
米寿期（８５歳～８９歳）	昭和３年～大正１３年
傘寿期（８０歳～８４歳）	昭和８年～昭和４年
喜寿期（７５歳～７９歳）	昭和１３年～昭和９年
古希期（７０歳～７４歳）	昭和１８年～昭和１４年
還暦期（６０歳～６９歳）	昭和２８年～昭和１９年

<注>平成２５年は大正１０２年、昭和８８年に当たります。

「平和団塊（昭和２１年～２５年）」の人びとがすべて還暦期に。

三世代年表 生年別の人口（男・女）、流行語、流行歌

◇これより「長命期」（八五歳～）

◇「長命期（米寿期）」（八五～八九歳） 人口は二〇一〇年一〇月一日。「国勢調査」総務省統計局

生年	干支	年齢	人口（男・女）万人	流行語・流行歌
一九二八	昭和 三 戊辰	八五	３３・９	５３・０ 狭いながらも楽しい我が家。「波浮の港」「君恋し」
一九二七	昭和 二 丁卯	八六	３０・４	４９・８ 何が彼女をさうさせたか。「ちゃつきり節」
一九二六	昭和 一 丙寅	八七	２７・１	４７・３ 文化住宅。モガ・モボ。「ヨサホイ節」「この道」
一九二五	大正一四 乙丑	八八	米寿 ２２・４	４２・５ 軍教。ラジオ放送。円タク。「あの町この町」
一九二四	大正一三 甲子	八九	１７・８	３７・０ 憲政の常道。メートルデー。「からたちの花」

◇「長命期（卒寿期）」（九〇～九四歳） 人口は二〇一〇年一〇月一日。「国勢調査」総務省統計局

生年	干支	年齢	人口（男・女）万人	流行語・流行歌
一九二三	大正一二 癸亥	九〇	卒寿 １３・８	３３・５ 大震災。流言蜚語。「船頭小唄」「復興節」
一九二二	大正一一 壬戌	九一	１１・３	２９・９ 恋愛の自由。民衆芸術。赤化。「馬賊の唄」「砂山」
一九二一	大正一〇 辛酉	九二	９・２	２６・０ 悪家主。プロレタリア。「七つの子」「赤とんぼ」

一九二〇 大正 九 庚申 九三 8・0 23・7 国調。示威運動。「聞け万国の労働者」「叱られて」
 一九一九 大正 八 己未 九四 5・4 16・6 デモクラシー。サボ。「背くらべ」「靴が鳴る」

◇「長命期（白寿期）」（九五～九九歳） 人口は二〇一〇年一〇月一日。「国勢調査」総務省統計局

生年	干支	年齢	人口（男・女）万人	流行語・流行歌
一九一八	大正 七 戊午	九五	4・5	14・8 平民宰相。米騒動。赤い鳥。「浜辺の歌」「宵待草」
一九一七	大正 六 丁巳	九六	3・6	12・4 きょうは帝劇、あすは三越。「さすらひの唄」
一九一六	大正 五 丙辰	九七	2・8	10・4 民本主義。是々非々。「サンタルチア」
一九一五	大正 四 乙卯	九八	2・0	7・8 御大典。ナッチョラン。「恋はやさし」「乾杯の唄」
一九一四	大正 三 甲寅	九九白寿	1・5	6・2 大正琴。「カチューシャの歌」「朧月夜」

◇これより「百寿期」（100歳～） 人口は二〇一〇年一〇月一日。「国勢調査」総務省統計局

生年	干支	年齢	人口（男・女）万人	流行語・流行歌
一九一三	大正 二 癸丑	一〇〇	1・0	4・6 薩関。新しい女。「鯉のぼり」「海」「早春譜」
一九一二	大正 一 壬子	一〇一	0・7	3・3 大正維新。閥族打倒。「都ぞ弥生」「春の小川」
一九一一	明治四四 辛亥	一〇二	0・4	2・2 元始、女性は実に太陽であった。「二宮金次郎」
		一〇〇歳以上	0・6	3・8 4・4万人（二〇一〇年一〇月一日「国勢調査」）
		一〇〇歳以上	6534	4万4842 5万1376人（二〇一二年九月一日 厚労省調査）
一九一〇	明治四三 庚戌	一〇三	—	— 主義者。小学唱歌。「春が来た」「われは海の子」
一九〇九	明治四二 己酉	一〇四	—	— 馬鹿な奴じゃ。マラソン。「ローレライ」「菩提樹」
一九〇八	明治四一 戊申	一〇五	—	— 浮華軽佻。耽美派。「人を恋うる歌」「ハイカラ節」
一九〇七	明治四〇 丁未	一〇六	—	— 自然主義。美顔術。キリン。「旅愁」「故郷の廃家」
一九〇六	明治三九 丙午	一〇七	—	— 黄禍論。成り金。無政府主義。「青葉の笛」
一九〇五	明治三八 乙巳	一〇八	—	— 天気晴朗なれど波高し。二〇三高地。「戦友」
一九〇四	明治三七 甲辰	一〇九	—	— 軍神。君死にたまふことなかれ。「日本陸軍」
一九〇三	明治三六 癸卯	一一〇	—	— アジアは一つなり。人生不可解。魔風恋風。

改元 明治 45＝大正元 1912. 7. 30 大正 15＝昭和元 1926. 12. 25 昭和 64＝平成元 1989. 1. 8
 （2013・1・15 修正 堀内正範）

大正・昭和シニア人名録

ご自分と「賀寿期」をともに生きる「知名人」の方の小録としてご参考までに。

ご紹介できるのは少数ですが、これだけの優れた人びとが、長年かけてつちかった知識・技能・経験そして築き上げた人格を保って活躍している姿がいつも見えているような社会が、「本格的な日本高齢社会」です。物故者も最近の人やまだ心の中に生きつづけている（話題になる）人は残してあります。

大正人の名簿

百寿期（100歳以上） 大正2年以前

白寿期（95歳～99歳） 大正7年～大正3年

卒寿期（90歳～94歳） 大正12年～大正8年

米寿期（85歳～89歳） 昭和3年～大正13年

1915／大正4年 1・2／むのたけじ

1917／6年 1・11／日高六郎、1・12／秋山ちえ子

1918／7年 5・27／中曽根康弘

1920／9年 2・12／山口淑子、3・23／川上哲治、5・9／森光子、5・30／安岡章太郎、12・24／阿川弘之

1922／11年 5・15／瀬戸内寂聴、6・18／D・キーン、9・12内海桂子

1923／12年 1・10／松山樹子、1・20／三國連太郎、4・19／千宗室、5・24／鈴木清順、6・12／竹内実、9・30／下河辺淳、11・5／佐藤愛子

1924／13年 1・2／河合雅雄、1・15／倉嶋厚、1・16／京極純一、2・8／久米明、2・18／陳舜臣、3・3／村山富市、3・25／京マチ子、4・5／金森久雄、4・30／伊藤雅俊、5・11／田中光常、6・25／丹阿彌谷津子、11・14／鈴木登紀子、11・25／吉本隆明

1925／14年 1・22／清水司、1・23／木下東一郎、2・27／豊田章一郎、3・12／江崎玲於奈、3・15／原寿雄、3・17／小尾信弥、3・20／梅原猛、3・31／永井路子、4・6／桂米丸、4・25／富永一朗、4・27／木村明生、5・10／橋田壽賀子、6・12／大田昌秀、6・26／杉本苑子、6・28／大関早苗、7・23／色川大吉、8・21／篠原一、8・27丸谷才一、9・17／杉下茂、9・19／岡田卓也、10・20／野中広務、11・6／桂米朝、11・27／鎮目恭夫

1926／15年（～12月25日） 1・8／森英恵、1・12／三浦朱門、2・15／松谷みよ子、2・25／多湖輝、3・15／辻久子、3・20／安野光雅、4・17／小川宏、4・30／河野多恵子、5・30／渡辺恒雄、9・1／石井ふく子、9・19／小柴昌俊、11・22／大塚初重、11・30／中根千枝

米寿期（85歳～89歳）人名録 昭和3年～大正13年

1924年（大正13）年

河合雅雄（1・2 霊長類学） 後藤次男（1・15 プロ野球） 京極純一（1・16 政治学）
久米明（2・8 俳優） 陳舜臣（2・18 作家） 大谷幸夫（2・20 建築家） 淡島千景
（2・24 女優） 村山富市（3・3 政治家） 京マチ子（3・25 女優） 高峰秀子（3・
27 女優） 金森久雄（4・5 経済学） 伊藤雅俊（4・30 経営者） 田中光常（5・11
写真家） 丹阿彌谷津子（6・25 女優） 芦野宏（6・18 歌手） 鈴木登紀子（11・14
料理研究家） 吉本隆明（11・25 詩人） 岡本敦郎（12・25 歌手）

1925年（大正14）年

鈴木文弥（1・4 アナウンサー） 清水司（1・22 工学・早大総長） 木下東一郎（1・23 理論物理） 大友工（2・19 プロ野球） 豊田章一郎（2・27 経営者） 江崎玲於奈（3・12 物理学） 原寿雄（3・15 ジャーナリスト） 小尾信弥（3・17 天文学） 梅原猛（3・20 哲学者） 永井路子（3・31 作家） 桂米丸（4・6 落語家） 富永一朗（4・25 漫画家） 木村明生（4・27 ロシア研究） 橋田壽賀子（5・10 作家） 大滝秀治（6・6 俳優） 大田昌秀（6・12 政治家） 杉本苑子（6・26 作家） 大関早苗（6・28 美容家） 藤沢嵐子（7・21 歌手） 色川大吉（7・23 歴史学） 篠原一（8・21 政治学） 丸谷才一（8・27 作家） 杉下茂（9・17 プロ野球） 大城立裕（9・19 作家） 岡田卓也（9・19 経営者） 星野哲郎（9・30 作詞家） 森本哲郎（10・13 評論家） 野中広務（10・20 政治家） 桂米朝（11・6 落語家） 鎮目恭夫（11・27 物理学）

1926年（昭和元）年

早乙女貢（1・1 歴史小説） 森英恵（1・8 ファッション） いいだもも（1・10 評論家） 森亘（1・10 病理学） 三浦朱門（1・12 作家） 榊莫山（2・1 書家） 津島恵子（2・7 女優） 松谷みよ子（2・15 児童文学） 多湖輝（2・25 心理学） 辻久子（3・15 バイオリン） 安野光雅（3・20 画家） 加藤 寛（4・3 経済学） 小川宏（4・17 アナウンサー） 河野多恵子（4・30 作家） 奥野健男（7・25 文芸評論） 今村昌平（9・15 映画監督） 小柴昌俊（9・19 物理学者） 祖父江孝男（11・5 文化人類学） 大塚初重（11・22 考古学） 鈴木孝夫（11・9 言語社会学） 中根千枝（11・30 社会人類学）

1927年（昭和2）年

一番ヶ瀬康子（1・5 社会福祉） 勅使河原宏（1・28 華道・映画監督） 熊倉一雄（1・30 演出家） 植木等（2・25 俳優） 高松和男（3・12 経営分析） 宮城まり子（3・21 ねむの木学園） 堤清二（3・30 企業経営・作家） 無着成恭（3・31 教育評論） 矢代静一（4・10 劇作家） 北杜夫（5・1 作家） ジョージ川口（6・15 音楽家） 芦野宏（6・18 シャンソン） 小原秀雄（7・2 動物生態学） 観世栄夫（8・3 能楽師） 小西正泰（8・9 昆虫学） 栗津則雄（8・15 文芸評論） 祖父江昭二（9・3 近代文学） 伊東光晴（9・11 経済学） 坂本義和（9・16 国際政治学） 緒方貞子（9・16 国際関係） 加山又造（9・24 画家） 舛田利雄（10・5 映画監督） 馬場のぼる（10・18 漫画家） 古田足日（11・29 児童文学）

1928年（昭和3）年

大堀敦子（1・1 ピアニスト） 三浦洸一（1・1 歌手） 池田大作（1・2 宗教家） 岡井隆（1・5 歌人） 網野善彦（1・22 常民文化） 田久保英夫（1・25 作家） 暉峻淑子（2・5 生活経済） 増田義郎（2・17 文化人類学） 上田哲（2・26 ジャーナリスト） 長沢和俊（2・28 東西交渉史） 兼高かおる（2・28 旅行作家） 小島功（3・3 漫画家） 西原春夫（3・13 法学者） 菊竹清訓（4・1 建築家） 古在由秀（4・1 天文学） 久里洋二（4・9 アニメーション） 諸井虔（4・23 企業経営） 津村節子（6・5 作家） 蛸山道雄（8・11 国際政治） 唯是康彦（8・13 食糧経済） 三浦文夫（社会保障・社会福祉） 五十嵐喜芳（9・8 声楽家） 古橋広之進（9・16 JOC 会長） 富森勲児（9・20 ジャーナリスト） 鈴木義司（9・26 漫画家） 羽仁進（10・10 評論家） 熊沢喜久雄（11・14 植物栄養学） 宮尾盤（11・27 地方財政） 土井たか子（11・30 政治家） 土本典昭（12・11 記録映画） 佐藤慶（12・21 俳優） 多木浩二（12・27 美術評論）